

リニアで名古屋はどう変わるのか

表題と写真にあるテーマで、11月29日(土)13時から名古屋市立大学桜山(川澄)キャンパスでシンポジウムが開催される。主催は名古屋市立大学大学院人間文化研究科の「社会と協働」分野である。この3月まで在籍した分野で、パネラーの一人として登壇することになり、「宣伝」を兼ねて早めにレポートしておきたい。

チラシにも書かれているシンポジウムの趣旨は次のとおりである。「リニア中央新幹線の開業により、巨大都市・東京へのストロー現象、名古屋市を中心市街地である名駅と栄の都市間競争、さらにはターミナル駅が完成予定の名古屋駅『駅西』商業地区への甚大な影響が予想されます。今回は、地元住民、シンクタンク研究員などさまざまな立場から、この問題を討論していきます。」

シンポジウムは、共立総合研究所副社長の江口忍さんの「リニア・インパクトは名古屋を変えるか」という講演から始まる。江口さんの鋭く説得的な論文は、かなり前から注目して読んできた。名駅と栄、名古屋都市圏の分析など、統計データを駆使した分析は、名古屋の都市研究だけでなく講義でも活用させてもらった。「マイ・オピニオン」などでも書かれているが、シンポジウムでの「リニア」講演を楽しみにしている。

講演後は人文社会学部の社会調査実習・林班の学生の皆さんによる、「名古屋市中心市街地の開発政策と『駅西』商店街の変動」というテーマの調査報告がある。昨年度まで、私もずっと社会調査実習を担当してきた。商店街や観光まちづくり、「3・11」以降は名駅地区などの防災・減災まちづくりをテーマに、学生の皆さんと調査を進めてきた。懐かしく思い出に残る実習である。「中間報告」を聴くことができなかったので、今回の報告が楽しみだ。

第3部のパネル・ディスカッションでは、講演された江口さんと田中和生・名古屋駅太閤通口まちづくり協議会 賑わい委員長、それに私の3人がパネリストをつとめる。コーディネーターは主催者の一人、林浩一郎講師である。パネラーを依頼された当初、大いに戸惑った。レポートでも2回にわたり書いたように、「はじめにリニアありき」に疑問を感じている。事業説明会に出て、その気持ちはさらに高まってきたからである。リニア開通を前提とした「リニア・インパクト」をどう論じるのか迷った。

でも、若い教員のあつい「期待」にすこしでも応えようと、パネリストを引き受けることにした。「辛口コメンテーター」として、いま考えているリニアの問題点を率直に語るつもりだ。それと「リニア頼み」「リニア幻想」について、中部国際空港「前島」などの先例を紹介しながら、その危険性とまちづくりの課題を述べようと考えている。

(2014年11月12日)

